

第1章

消費者行動理論

私たち消費者は、限られた予算の中で、自身の満足度が最大になるような買い物をしたいと思っている。これを最適消費計画という。では、どのようにすればそれが実現できるのか。ここでは、その鍵となる無差別曲線と予算制約線などについて学んでいく。

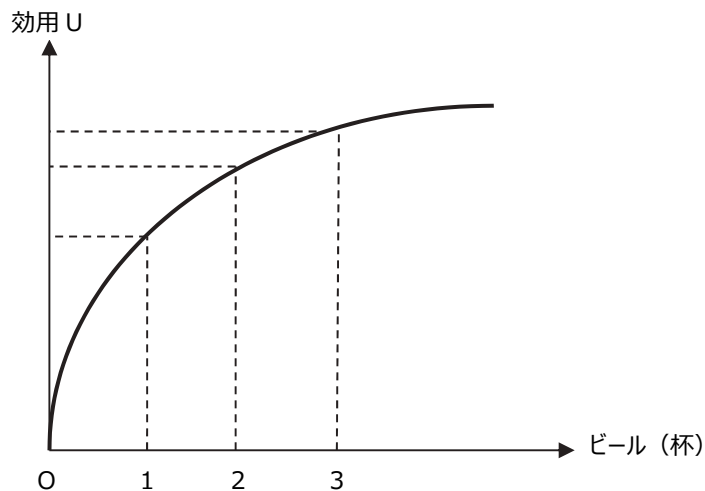
第1節 最適消費計画

効用関数

消費者が財を消費したことで得られる個人的な満足感のことを「効用」(Utility)という。効用は、財の消費量が増えるに従って増加するが、その増加幅は徐々に減っていく。例えば、炎天下で喉が渇いているときのビールを想像してみよう。1杯目に飲むビールは感動するほど美味しい。続いて2杯目も美味しいが1杯目ほどではない。3杯目になると、2杯目よりもさらにありがたみは落ちる。

このように、同じ1杯のビールを飲んだ場合でも、満足度は徐々に減っていく。これを「限界効用逕減の法則」という。限界というのは、財が1単位増えたときの、ある要素の増加分のことである。ここでは、ビール(財)を1杯追加で飲んだときの満足度(効用)は、徐々に減っていく(逕減する)ことを意味している。

この満足度(効用)をグラフで表すと、以下の図のようになる。これを効用関数という。



限界効用は、この効用関数上の点の接線の傾きで表される。

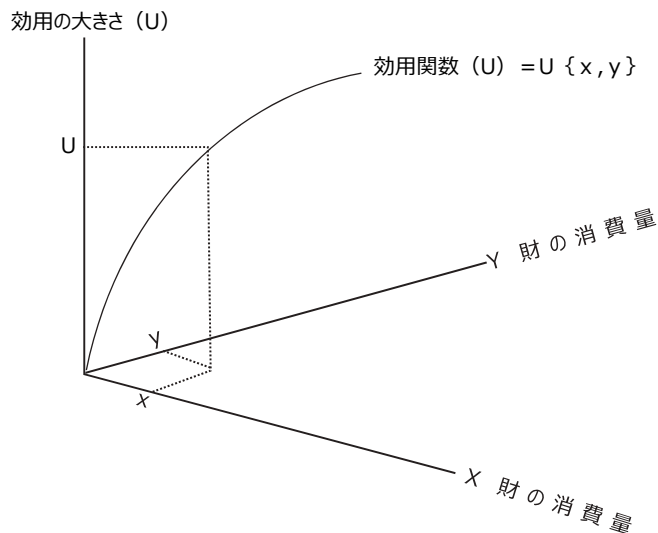
限界効用が逕減するということは、消費量が増えるに従って、徐々に接線の傾きが緩やかになることを指す。

- ◆「限界」とは、財が 1 単位増えたときの、ある要素の増加分のことである。
- ◆「限界」は、接線の傾きで表される。
- ◆接線の傾きが徐々に緩やかになることを「逓減」という。
- ◆限界効用は、逓減する。(接線の傾きは徐々に緩やかになる)

上記の効用のグラフは 1 財の場合だが、試験では主に 2 財の効用関数が提示される。なお、2 財以上の効用関数の場合、グラフは 3 次元となるため、出題される場合は無差別曲線という形で表されることになる。

無差別曲線

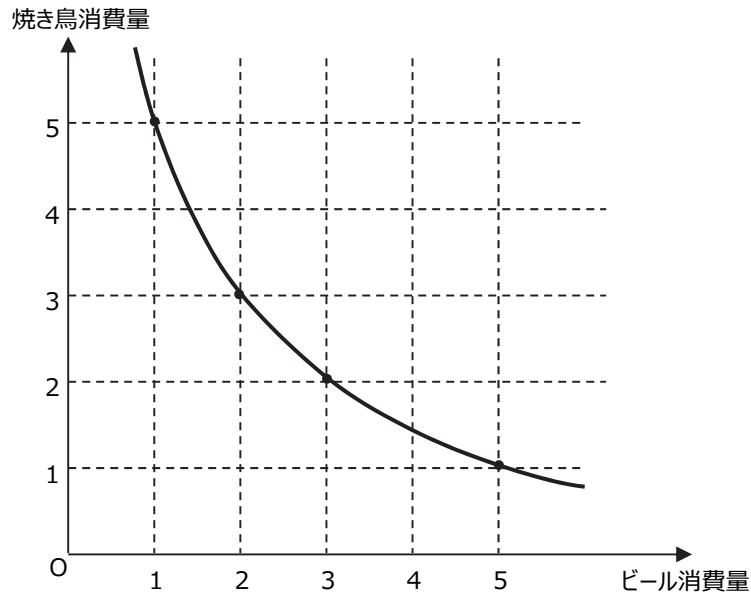
無差別曲線とは、2 財で作られる立体的な効用関数を、ある一定の効用において水平に輪切りにしたものである。



具体例で見てみよう。先ほどは、ビールという 1 つの商品（財）で得られる効用を見た。では、ここでビールと焼き鳥という「2 つの財の組み合わせ」で見ることにする。ある消費者にとって、ビールと焼き鳥を同時に消費した場合に、同じ満足度（効用）が得られる組み合わせが以下の通りであったとする。

ビール消費量	1 杯	2 杯	3 杯	5 杯
焼き鳥消費量	5 本	3 本	2 本	1 本

これをグラフに表すと以下ようになる。



このように、2つの財を同時に消費し、同じ効用となる組み合わせを結んだ曲線を「無差別曲線」という。無差別とは Indifference（異なる）の訳であり、「同じ」であることを意味している。

一般的な無差別曲線には、以下のような性質がある。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 右下がりである ② 右上ほど高い効用を表す ③ 原点に対して凸である ④ 交わらない ⑤ 序数的効用を表す |
|---|

※例外的な無差別曲線については後で学ぶ

① 右下がりである（財の代替性）

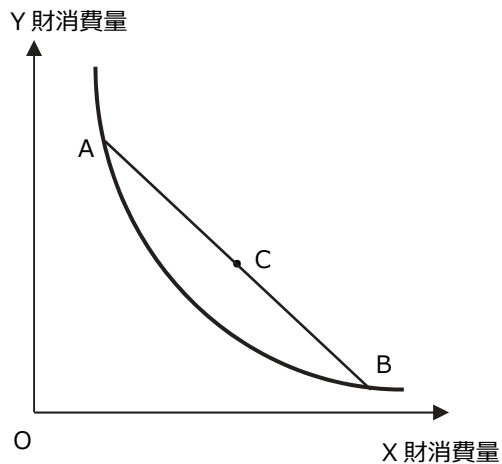
一方の財を減少させて効用が減少しても、他方の財を増加させることで、元の効用水準を維持することができる。この性質を、**財の代替性**という。この性質により、無差別曲線は右下がりとなる。

② 右上ほど高い効用を表す

財の消費量が多いほど消費者の効用は増加するため、右上に位置する無差別曲線ほど高い効用を表す。

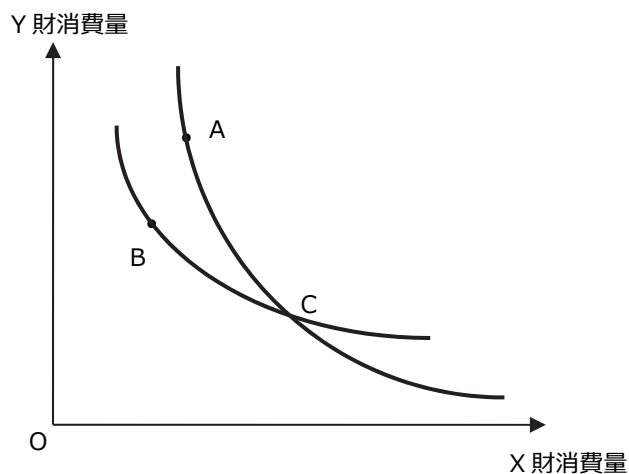
③ 原点に対して凸である

複数の財を同時に消費する場合、一般的に、どちらかの財に偏った消費よりもバランスよく消費することの方が好まれる。下の図において、Y財の消費に偏ったA点やX財の消費に偏ったB点よりも、A点とB点を平均化したC点の方が効用は高い。そのため、無差別曲線は原点に対して凸になる。



④ 交わらない

もし、下図のように複数の無差別曲線が交わるとすると、A点とC点の効用が等しく、またB点とC点の効用も等しいことから、A点とB点の効用も等しいことになる。しかし無差別曲線は右上に位置する点ほど効用が大きいのであるから、矛盾する。そのため、無差別曲線同士が交わることはない。



⑤ 序数的効用を表す

効用水準 U_A と U_B の大小関係を考えるときは、2 つにどれだけの数値的な差があるかは考えず、どちらが大きいかにのみ着目する。このように、「数値に意味はなく優劣のみを重視する効用」を、**序数的効用**という（反対に、数値そのものに意味がある効用を**基数的効用**という）。

序数的…優劣が付けられる（例：1 位・2 位・3 位）

基数的…点数が付けられる（例：95 点・94 点・88 点）

